

アジアの村落開発における

持続可能な発展のための教育の可能性についての研究

A study on the possibility of education for sustainable development
in rural areas of Asia

金田卓也¹, 石井雅幸¹, 矢野博之¹, 下田敦子², 高橋舞²

Takuya Kaneda¹, Masayuki Ishii¹, Hiroshi Yano¹, Atsuko Shimoda², Mai Takahashi²

¹大妻女子大学家政学部児童学科, ²大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード：アジア, 持続可能な発展, 教育

Key words : Asia, Sustainable development, Education

1. 研究目的

本研究の目的は、昨年度に引き続き、ネパール、タイ、ミャンマーにおいて持続可能な村落開発を実現するために伝統的な知識や技術を教育の中でどのように生かしていくか、その具体的な方法と課題を「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)と関連させて明らかにすることである。

2. 研究実施内容

2021年度に入り現地調査を再開する予定であったが、日本でも猛威を振るった新型コロナウイルス感染拡大は調査地であるネパール、タイ、ミャンマーでも著しく、渡航困難な状況が続いた。

現地でもデルタ株の感染拡大の後、一度終息の方向に向かったように見えたが、新たなオミクロン株の発生により予定していた現地調査も断念せざるを得なくなった。そうした状況においても現地で進められているプロジェクトの一部を報告しておきたい。

ネパールのムラバリ (Mulabari) 村でのウコン染めによる「Yellow Dream Project～持続可能な女性支援プロジェクト～」はコロナ禍の中でも継続している。病院のないこの村ではひとりでも感染者が出ると感染拡大を防ぐことは不可能に近く、村人に新型コロナウイルス関連の情報を提供すると共に、できる限り村から出ないように注意を喚起した。このように村の外と直接コンタクトできない状況であっても、Messenger のアプリを活用して

スイスのインターナショナル・スクールである Ecolint とのコラボレーションや土絵の制作といったアートプロジェクトが実施された。

Ecolint とのコラボレーション

2020年度にはムラバリ村と Ecolint の高校生とで持続可能な発展に関する同じテーマで壁画を制作するというコラボレーションが行われた。コロナウイルス感染が終息すれば、Ecolint の高校生がネパールを訪れ、ムラバリ村の壁画を完成させるという計画であったが、感染状況は続き、2021年度の段階ではいつ実施できるか未定である。2021年9月の Ecolint におけるアートワークショップでもムラバリ村とのコラボレーションは継続され、ムラバリ村で進められているアボカドの植樹をテーマにした壁画を描くことになった。アボカドをシンボリックに表現した壁画制作と共に植樹支援のための募金活動が高校生の主体的な活動として進められた。

Ecolint での募金はムラバリ村に送られ、村の斜面にアートワークショップの中心テーマであるミケランジェロ・ピストレット (Michelangelo Pistoletto) の『第三のパラダイス』に関連させて、そのシンボルである連続した3個の円の形にアボカドの苗を植えることになった。アートプロジェクトとしての意義を持つ植樹はドイツの現代美術家ヨーゼフ・ボイス (Joseph Beuys) の『7000本の櫛の木』(カッセル市ドクメンタ 7, 1982年) という作品と共通するものである。



写真 1. アボカドの苗を植える

土絵の制作



写真 2. さまざまな色彩の土

民家の壁に異なる色彩の土を顔料として絵を描くというアートプロジェクトの新たな実践が土絵作家である佐藤香氏の協力のもとに行われた。ネパールのタライ (Tarai) 平原に住むタルー (Tharu) の人々は土壁の家に宗教的なモチーフや動物のレリーフを作る伝統がある。また、ミティラー (Mithila) 地方では色彩豊かな壁画を民家の外壁に描く習慣がある。

調査地であるムラバリ村ではこのような壁画の習慣というものはないが、アートプロジェクトの一環として行われた 2015 年の大地震で著し



写真 3. 民家の壁に描かれた土絵

く損傷したヒンドゥー教寺院の修復時には寺院の外壁にヒンドゥー教の神話的モチーフが描かれた。また、村人からの提案で集会所内部の壁面にも壁画が描かれることになり、この土絵の制作においてもこれまでのアートプロジェクトの経験が生かされる結果となった。

3. まとめと今後の課題

2020 年度に続き、2021 年度も新型コロナウイルス感染状況の拡大のために現地調査を実施することはできなかったが、現地の人々の協力によりプロジェクトを中断せずに継続することができた。調査協力者からプロジェクトの進捗状況についての報告と写真資料提供は受けているが、多角的な聞き取り調査等、現地調査なしでは資料を十分に集めることはできなかった。現地調査を実施できれば、より多様な資料の収集が可能になるので海外渡航再開後の現地調査に期待したい。

*写真撮影は現地協力者。掲載した写真に写っている人物に関しては、現地の協力者を通して許諾を得ており、個人情報等に関しては十分な倫理的配慮を行った。

4. この助成による発表論文等

②学会発表 金田卓也. “Art for the Earth 持続可能な世界へ向けてのアートプロジェクト”. 美術教育研究会 第 27 回研究大会. 2021 年 11 月 7 日. 東京藝術大学. (招待講演)

参考文献

金田卓也. “ネパールの村落における社会関与型アートプロジェクトと芸術教育”. 人間生活文化研究. 2020, No. 30, p. 539-548.